令和７年（2025 年）１０月７日

北海道環境生活部自然環境局野生動物対策課ヒグマ対策室

令和７年秋の山の実なり調査結果について

○　ヒグマの秋の主要な食物４種の実なりの豊凶状況を調査した結果、４種とも豊作の地点はなく、実なりの悪い傾向がみられました。

・２種のドングリ（ミズナラの堅果及びブナの堅果）は広範囲で凶作

・ヤマブドウ及びコクワ（サルナシ）は広範囲で並作あるいは不作で、一部で凶作

○　秋の食物が不作凶作の年にはヒグマは食物を探して広範囲を移動するため、人間の生活圏への出没頻度が増えると考えられます。ヒグマに充分な注意が必要です。

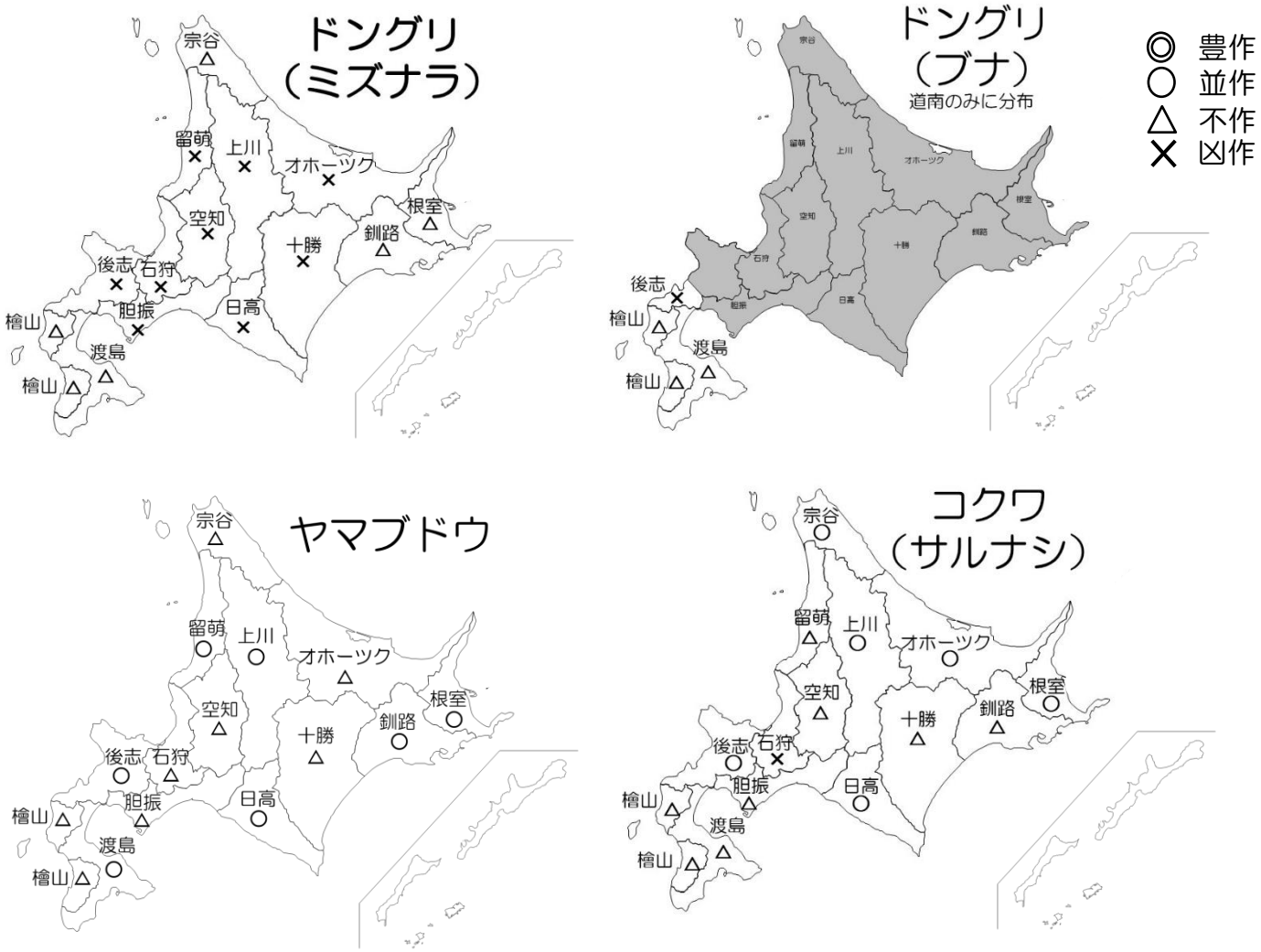
○　人身事故を防止するため、次のポイントに留意して下さい。

①　生ごみや放任果樹、廃棄農産物の放置は、ヒグマを誘引し、定着させる原因となるので、やめましょう。また、出没抑制となる下草刈りなども行いましょう。

②　山菜採りなどで山に入るときは、出没情報を確認の上、クマスプレーの携帯や複数人で行動するほか、ヒグマの痕跡（足跡やフン）があった場合には引き返しましょう。

★ ヒグマやその痕跡を発見した時は、警察または市町村役場に連絡しましょう。

図１ ヒグマの秋の主要な食物４種の豊凶状況



【調査目的と方法】

○　ヒグマの市街地や農地への出没は、その時期の主要な食物の生育状況と関係があると考えられているため、道では、平成 17 年から、秋のヒグマの主要食物のち、ドングリ２種（ミズナラの堅果及びブナの堅果）やヤマブドウ、コクワ（サルナシの果実）の合計４種の実なりについて、関係機関の協力を得ながら調査しています。

○　調査方法は、①定点での調査（定量的情報）、②地域における観測者の目視による経年比較に基づく調査（定性的情報）の２種類から総合的に評価を行っています。

（豊作：３点、並作：２点、不作：１点、凶作０点）

＜ドングリ（ミズナラの堅果）：定量的情報（一部定性的情報含む）＞

大学演習林、北海道森林管理局、（地独）北海道立総合研究機構、市町村、自然環境保全団体、振興局が実施した 345 か所の調査結果を評価。

＜ドングリ（ブナの堅果）（道南地域のみに分布）：定性的情報＞

大学演習林、北海道森林管理局、振興局が実施した 33 か所の調査結果を評価。

＜ヤマブドウ及びコクワ（サルナシ）：定性的情報＞

大学演習林、北海道森林管理局、振興局が実施した 272 か所の調査結果を評価。

【評価方法】

○　各地点の調査結果を振興局毎に集計し、GPA（評価成績を数値で評価）の手法で計算して得られた結果を以下の基準に当てはめ、評価しています。

評価基準　豊作：2.5 以上、並作：2.49～1.5、不作：1.49～0.5、凶作：0.49 未満

【結果の解説】

○　今年は、ドングリ２種は広範囲で凶作、ヤマブドウ及びコクワは広範囲で並作あるいは不作で、一部で凶作であり、４種とも豊作の地点はなく、実なりの悪い傾向がみられました。（今年の調査結果は図１、過去６年の調査結果は図２～５）

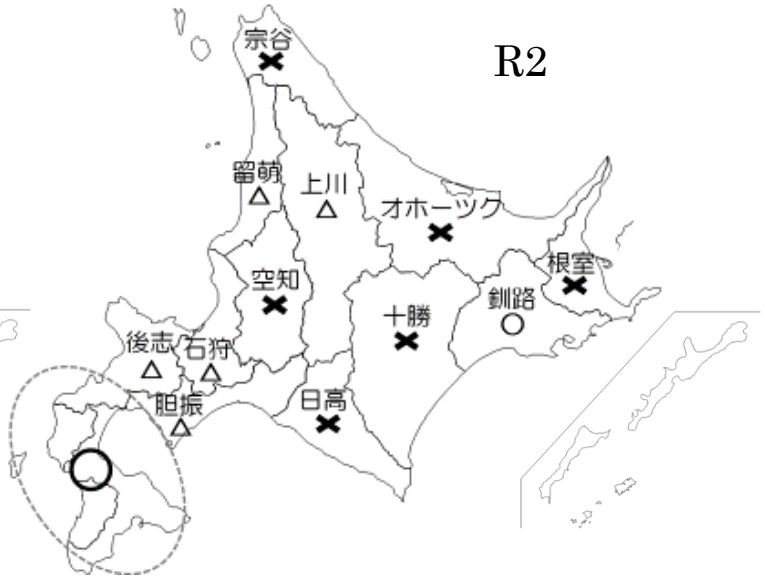
○　なお、ヒグマの市街地などへの出没には本調査以外の要因もあるので、ご留意ください。

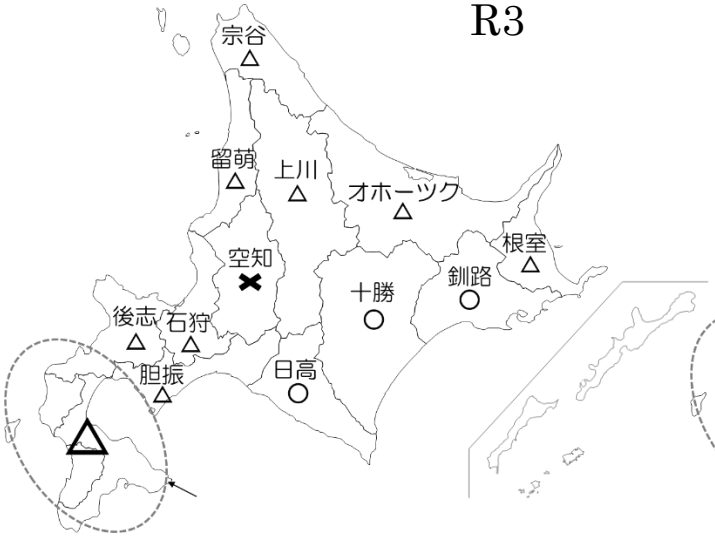
【豊凶状況の表示】

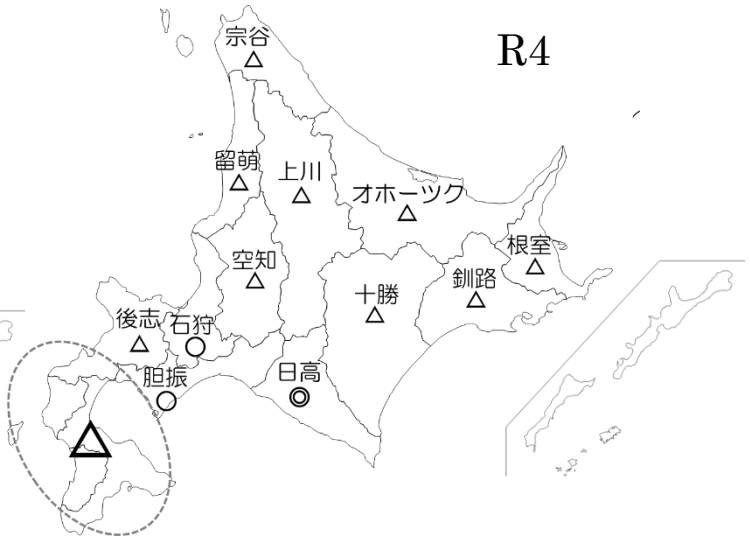
◯　北海道森林管理局の協力などにより、広域で豊凶状況を確認できるようになったことから、令和２年度から振興局単位で豊凶状況を評価しているとともに、表示も３段階（豊作、並作、不作～凶作）から４段階（不作と凶作を分割）に変更しています。

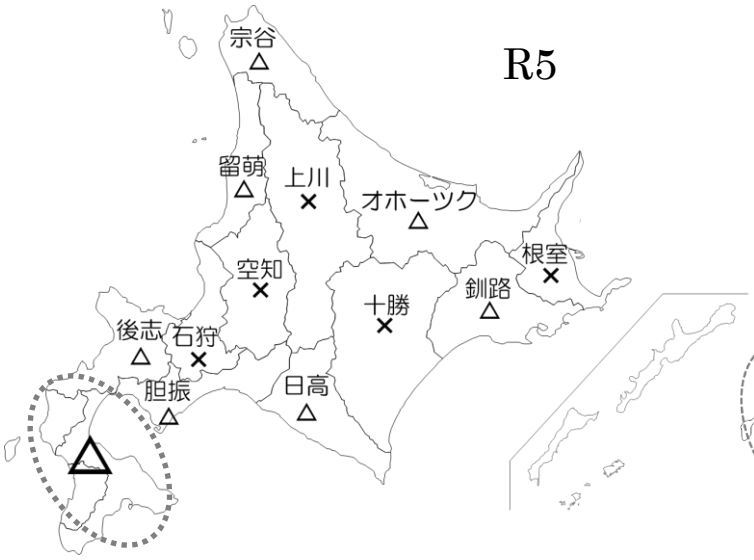
図２　ドングリ（ミズナラ）の豊凶状況（R1～R6）

渡島半島地域は、多数の調査
地点から総合的に評価









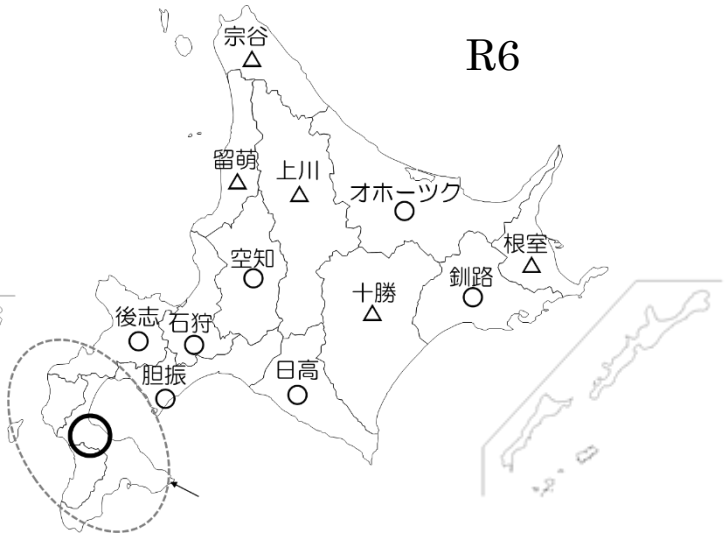
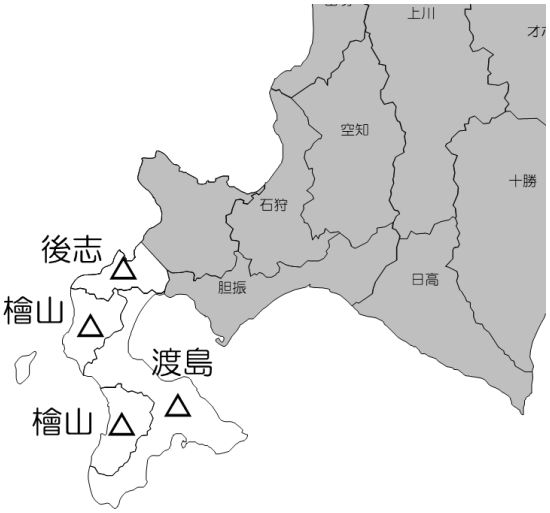


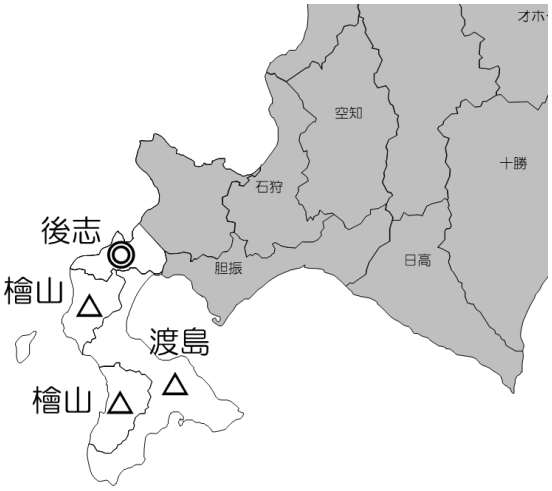
図３　ドングリ（ブナ）の豊凶状況（R1～R6）

R1

R2

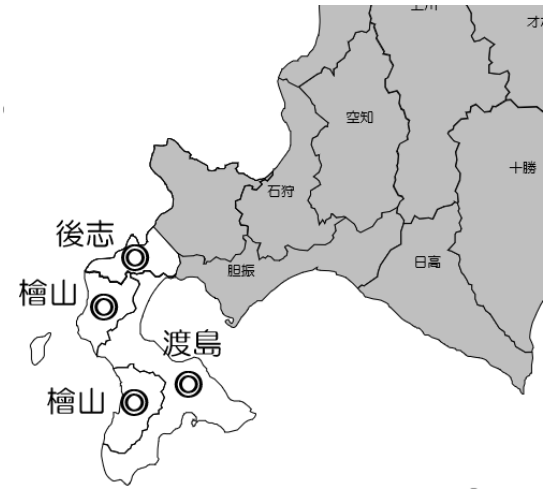


R3



R4

R5



R6

図４　ヤマブドウの豊凶状況（R1～R6）

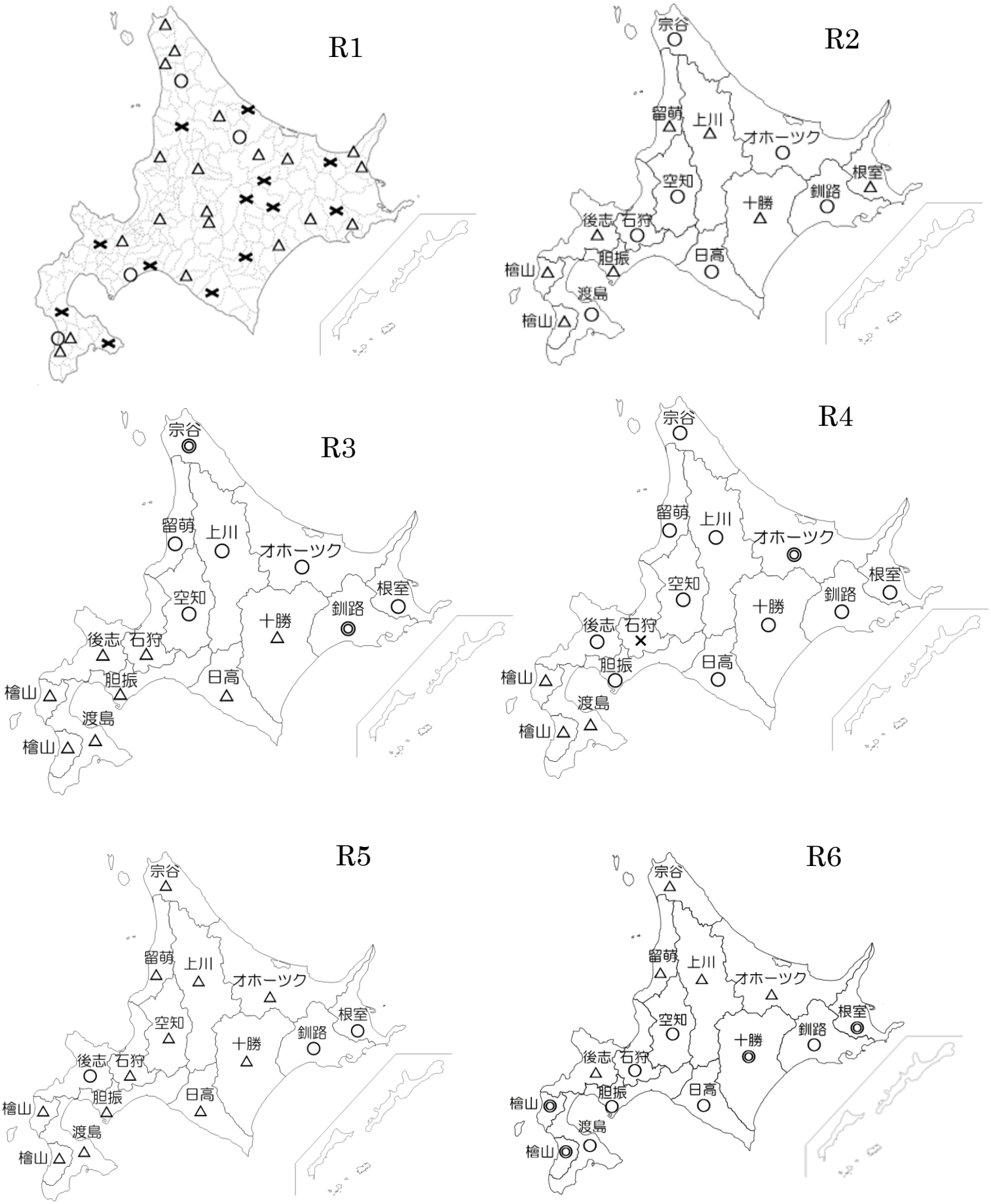
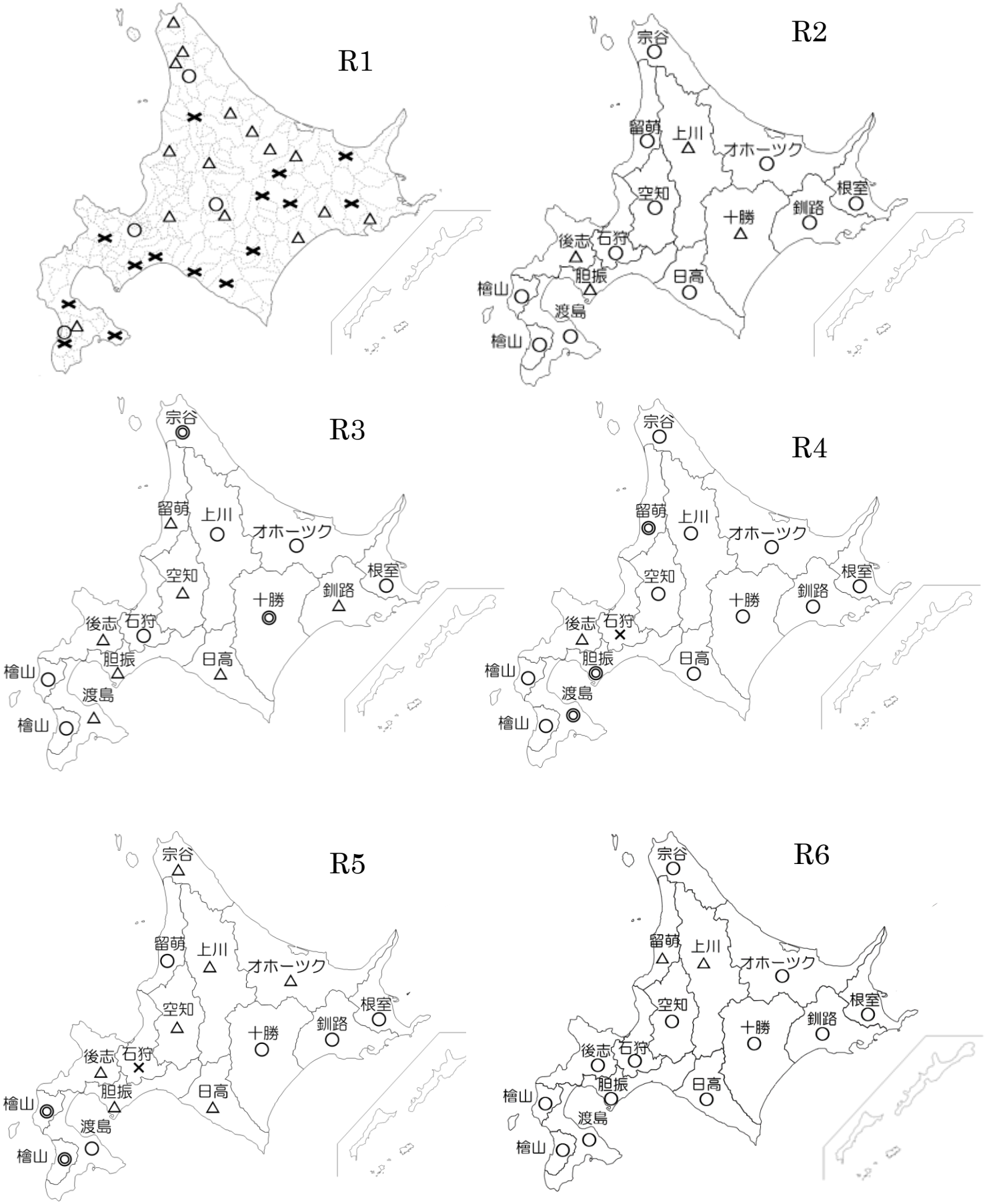



図５　コクワ（サルナシ）の豊凶状況（R1～R6）